



演奏から録音に至るまで全て学生が手がけた
名古屋芸術大学にしかできない唯一無二のアルバム

American Composers Selection

2024年7月19日 配信開始

《収録曲》

ルイ・ブルジョアの讃美歌による変奏曲 / C.T.スミス

アメリカン・エレジー / フランク・ティケリ

ワイルド・ナイツ! / フランク・ティケリ

美中の美 / J.P.スーザ



アルバムコンセプト

このアルバムは、近現代のアメリカの吹奏楽作曲家に焦点をあてたセレクションです。収録曲は20世紀中期に活躍したクロード・トーマス・スミスの代表作の一つである「ルイ・ブルジョアの讚美歌による変奏曲」、オーケストラや吹奏楽曲をはじめ、合唱曲、室内楽など様々な分野で作曲を行なっているフランク・ティケリの「アメリカン・エレジー」と「ワイルド・ナイツ!」、100曲を超えるマーチを作曲したマーチ王、ジョン・フィリップ・スーザの「美中の美」といったアメリカ生まれの名曲を取り上げています。録音は2023年10月14、15日の2日間に渡り本学ホールでセッションレコーディングの形式で行いました。収録は、本学サウンドメディア・コンポジションコースの学生が担当し、事後の編集、ミックス、マスタリングも、学生達が担当しました。本作品は、通常ステレオのみではなく立体音響フォーマットであるドルビーアトモスでも制作しました。ドルビーアトモス版はまるで指揮台に立っているかのようなサウンドをコンセプトにミックスし、通常ステレオ版とは、異なる音楽の響きの体験ができます。学生によって作り上げられた作品をお楽しみください。

プロデューサー担当 / 本学3年 レック・デニス

ルイ・ブルジョアの讚美歌による変奏曲 / C.T.スミス

この曲は、ワシントンの海兵隊軍楽隊の委嘱によって1984年にC.T.スミスによって作曲されました。海兵隊軍楽隊には、指揮者、ジョン・ブージェワ大佐がいましたが、スミスは、16世紀のフランス人の作曲家ルイ・ブルジョワが作曲した詩篇のなかにあるメロディを用いて、変奏曲としてこの曲を作曲しました。このメロディは随所に軸になっていて、楽器やその形を変えながら登場します。全てのセクションに高い技術が要求される難しい曲でしたが、より良い演奏を求めてテイクを重ねました。録音していった際、自身のディレクションで演奏がどんどん素晴らしいものになっていく様子に心が震えました。そんな中で生み出された、煌びやかな音色、色彩を感じるハーモニーにぜひ注目して聴いて頂けたら嬉しいです。

ディレクター担当 / 本学3年 中野 百香

アメリカン・エレジー / フランク・ティケリ

この作品は、コロンバイン高校銃乱射事件で命を落とした人々を追悼し、生存者を称えるために作曲されました。「エレジー」という意味は悲哀の情をテーマとする楽曲という意味があります。ただこの曲は悲哀よりも希望を感じさせる部分が多いように感じます。どこか悲しみが残りつつも穏やかな雰囲気の中に、訴えかけるようなフレーズがいくつも登場します。そして、美しい旋律と感動的なクライマックスには心を動かされ、今を生きている人々を勇気づけてくれる、そんな素晴らしい作品だと思います。つまり、人生は悲しいことばかりじゃない。希望を持つことで嬉しいことや楽しいこともきっとある。限りある命を希望を持って生きてほしい。ティケリはそのようなことを伝えたいのではないのでしょうか。この楽曲、アメリカン・エレジーを通して命の大切さ、希望を持つ素晴らしさをぜひ感じてもらえると幸いです。また、この作品の中間部では、トランペットのバンダ(オフステージ)での独奏があります。このバンダでの演奏表現は、この事件で亡くなった方々への「祈りと追悼」であると考えドルビーアトモス版では、正面ではなく「特別な場所」に定位しました。ぜひドルビーアトモス版でその場所を探してみてください。

ディレクター担当 / 本学3年 日比 奏妙

ワイルド・ナイツ! / フランク・ティケリ

私はこの曲を初めて聴いた際、大海原を進む船の上にいるような気持ちになりました。一隻の船の上に夢や希望を乗せ、嵐の中をも突き進む。この曲をレコーディングするにあたり、そんな力強さを表現したいと思いました。そのアプローチの一つとして、曲をストーリーとして捉え、自分の考えたセクション毎に録音していきました。時には激しく、時にはやさしく。そんな一つ一つの感情の起伏、その表現はまさに自分にとっての冒険でした。この曲の元となったとされるエミリー・ディキンソンの詩には「Were I with thee, Wild nights should be Our luxury!」とあります。「あなたと一緒にならワイルドな夜も贅沢になる。」そんな嵐の夜を、この曲の持つ力強さをぜひ感じて欲しいです。

ディレクター担当 / 本学4年 吉田 光太

美中の美 / J.P.スーザ

この作品は、作曲者であるジョン・フィリップ・スーザが、ある博覧会で出会った一人の美しい女性を思いながら作曲した行進曲です。タイトルの「美中の美(The he Fairest of the Fair)」は、美人の中の美人という意味でもありますが、タイトルにもある“fair”は美人の他にも博覧会という意味があり、「博覧会の中でもっとも素晴らしい博覧会」という意味にもなります。私はこの曲を聴いて上品でありながらもどこか愛くるしくキラキラしている高嶺の花の様な女性と、博覧会への期待感を思い浮かべました。ときめき、心が浮ついて楽しい、そんな青春のような気持ちをこの曲に込めたいなと思いレコーディングをしました。ぜひ二つの意味を持つときめきの感情をお楽しみください。

ディレクター担当 / 本学3年 関谷 百加

今回のセッションレコーディングについて



指揮者
遠藤宏幸先生

レッケ君「先日はセッションレコーディングにご協力いただきありがとうございました。完成した音源を聴いてみてどうでしたか？」

遠藤先生「今の名古屋芸大にできる最高水準の演奏をサウンドメディア・コンポジションコースの能力で引き出してもらいながら細部まで詰める事ができたから、これが名古屋芸大のレベルなのだと再確認ができたね。」

レッケ君「ありがとうございます。やはり生で聴いた感覚とは違いましたか？」

遠藤先生「そんなめっちゃくちゃは変わらなかったな。改めて客観的に聴くから『こういう音だったのか』とか『こうしておけばよかった』と思うことはあったかな。良い面も悪い面も含めてね。」

レッケ君「改めて、名古屋芸術大学とはどのような大学でしょうか。」

遠藤先生「総合芸術大学のように様々な芸術に関する領域やコースがあって、今回のセッションレコーディングもウインドオーケストラとサウンドメディア・コンポジションコースのコラボレーションで成立させることができる大学だね。ジャケットもデザイン領域の学生に依頼をしているし、大学内で一つの音源を作り上げる能力を備えているのはかなり強みだと思う。」

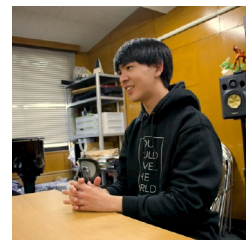
レッケ君「特に名古屋芸大は学生内のコース間の繋がりや先生方との距離がとても近いですね。だからこそこのような企画が成り立つのだとも思いますね。それと、長江先生がおっしゃっていたのですが、今回のような吹奏楽のレコーディングは2回目なんですね。」

遠藤先生「そう、1回目はコロナの影響で演奏会ができなくなっちゃって、無観客の状況で何かできることはないかと模索した結果がその1回目のレコーディング。やはりレコーディングは吹く方も録る方も勉強になるからと長江先生と話して実現したことだね。」

レッケ君「はい、僕はフルートも演奏するので、演奏者としても録音技術者としてもこのような機会での学びはとても多かったです。また、次のレコーディングに向けて何かありますでしょうか。」

遠藤先生「やはり学生からどんどん意見が出てきて、このセッションレコーディングがみんなにとっての研究であってほしいかな。今回も色んなトラブルとかあったと思うけど何をしたら上手くいくのか、逆に何をしたら上手くいかないのかを明確にして次に繋げて欲しいね。マイクとかテイク管理の仕方とかの録音の方法に関しても、先生からの提案だけじゃなくて、失敗しても良いから学生からどんどん意見を出して欲しい。先生達が提示するセオリーとは違うことを自分たちでやってみることで初めて見えることってたくさんあると思うから。それは各演奏会でやってくれているライブ配信の時も同じかな。」

レッケ君「そうですね、我々学生も意思を持って頑張ろうと思います。ありがとうございました。」



プロデューサー(本学3年)
レッケ・デニス君

演奏

名古屋芸術大学ウインドオーケストラ

指揮

遠藤 宏幸(本学准教授)

アートワーク

松野 一登(デザイン領域4年)

収録

レッケ・デニス(Producer)

名古屋芸術大学 サウンドメディア・コンポジションコース セッションレコーディングチーム(学生16名)

中野 百香 / 日比 奏妙 / 吉田 光太 / 関谷 百加 / 深井 龍心 / 平野 祥吾 / 大林 柊貴 /

佐々木 勇午 / 加藤 夕稀 / 神谷 葉月 / 前川 美帆 / 柿木 美祐 / 中村 颯汰 / 内田 千翔 /

大角 琳 / 勝山 裕子 / 長江 和哉(教員)

遠藤宏幸先生より

名古屋芸術大学という一つのコミュニティで、さまざまなジャンルを志す学生たちが、すべての学びを注ぎ込んでこの作品は出来上がっています。若い力が進む演奏と、それらを最大限に引き出す渾身のディレクションをお楽しみください。

松野一登さんより

アートワークは、アルバムタイトルの通りにアメリカ合衆国の国旗をイメージしたデザインとしました。このアルバムに収録されている4曲それぞれの持つ悲しさや、美しさ、強さを色に乗せ、アルバム全体の雰囲気にもふさわしくなるようにデザインしました。



Records

NUA Recordsは、名古屋芸術大学の学生・卒業生のための音楽配信レーベルです。学生・卒業生たちの演奏や作品を多くの人に聴いていただきたいという願いから、2022年に立ち上げました。名古屋芸術大学の特色である多様性を活かし、多種多様な音楽を発信していきます。

<http://nua-music.jp/nuarecords/>



本作品は3D Audio (ドルビーアトモスミュージック) と通常ステレオで制作されています。Apple MusicとAmazon Musicでは設定によりドルビーアトモスとして再生されます。